

月刊 やちまなこ

2023. 1.15 発行

No.302

1月号

釧路湿原国立公園

塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）だより



オオワシ [学名 : *Haliaeetus pelagicus*]

新年を迎えた塘路湖では、連日、わかさぎ釣りの人たちで、賑わいをみせています。夏の波打つ湖畔を知る者としては、道具を持った人たちが、氷上を歩いていく様子に、不思議な気持ちを抱かずにいられないのですが、この情景も、塘路湖の冬の風物詩のひとつなのでしょう。

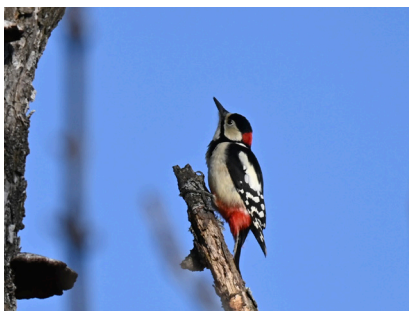
約三年間続いた橋脚工事を終えて、新しい「二本松橋」が完成しました。巡視に赴くと、その開通状況を確認するかのよう、冬の使者がじっと橋の周辺を見守っていた。



塘路フィールドノート【12/15～1/14】

【野鳥】

塘路湖の結氷を機に、水鳥の姿はほとんど観られなくなった。葉の落ちた森では、厳しい冬を乗り越えるため、少ない食糧を懸命に食べている小鳥たちの姿が目立つようになってきた。



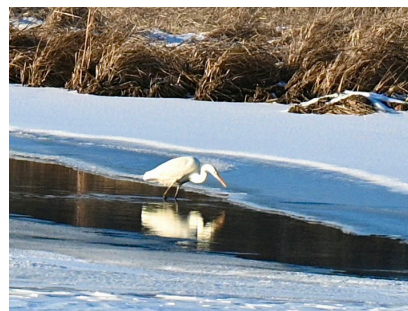
エゾアカゲラ (サルルントー)

仲間と激しい縄張り争いをする時は、かん高い声で激しく牽制しあう。キツツキ科。



エゾコゲラ (塘路湖)

留鳥であるが、小さいせいか夏は目立たない。カラ類と行動を共にするキツツキ。



ダイサギ (シラルトロ湖)

凍結した湖でも、流入部の解氷部をみつけ、魚貝類などを捕食しているようだ。サギ科。



ノスリ (塘路原野)

今時期は林内で静かにしていることが多い。風に乗って獲物を探すことの多い猛禽類。



シマエナガ (塘路湖畔)

ヤナギの冬芽やニシキギの実などに群れて訪れていた。エナガの北海道亜種。



オジロワシ (釧路湿原)

この冬はオオワシの渡来に比べ少ない気がするが、釧路湿原には多くの留鳥がいる。

【植物】

今の季節は彩りは地味であるが、既に来春の芽吹き準備を初めている。植物も種によって、越冬の生存戦略に違いがあり、非常に興味深い。



オニゲルミ冬芽（鬼胡桃）

鳥羽状の葉を葉柄ごと落とし、面白い跡が残るが、その脇から新芽を形成していく。



アカエゾマツの実（赤蝦夷松）

センター近くのトウヒ属の松。春がくるまで松ぼっくりを引き締めて種子を守る。



ミズナラ冬芽（水榭）

これから春に向けて冬芽を膨らませる。既に芽吹きの瞬間を待つ者がつく。↓が拡大図。

【厳しい冬を越える生物たち】

冬になるとその殆どが姿を消す生物たち。でも、よく探せば厳しい環境の中でひっそりと春の到来を待っている姿を確認することが出来る。今回はそんな生物をちょっとだけ探してみました。



クモガタガガンボ（蝶の森）

クモのようにみえるが、翅が退化したガガンボの仲間。晴天の雪上を歩くことで有名？！



ヨシカレハ幼虫（蝶の森）

これも雪上を歩く不思議な毛虫。ヨシやササなど湿原の植物を食べる蛾の幼虫。



ジョウザンミドリシジミ卵（塘路湖畔）

ミズナラの冬芽につく小さなチョウの越冬卵。札幌の定山溪が名前の由来。シジミチョウ科。



エゾリス（塘路湖畔）

シマリスのように冬眠はせず。厳しい冬を野外で過ごす。長い毛は耳当てのよう。



ジュズカケハゼ（塘路湖）

氷の開いた水辺では、小さなハゼ科の魚が確認されました。環境省 RDB 準絶滅危惧（NT）。



エゾアカガエル（塘路湖）

氷下の水中で冬を越える蛙。画像の範囲だけで3つは確認された。春の合唱が待ち遠しい。

◎二本松橋が竣工しました。

12月20日。2020年3月の大雨で、橋脚がずれて通行止めとなっていた「二本松橋」が、遂に竣工致しました。

この3年は、塘路湖からコッタロ湿原展望台まで、随分遠回りだったのですが、今年からは車で数分で行けるようになりました。

一方、塘路湖の「御神渡し」は今年も不発に終わりました。今年で4年連続と残念な結果となりました。



新しい「二本松橋」奥に古い橋脚が残る

◎冬の森で野鳥観察を感応しました。

12月17日(土)は、結氷した塘路湖とフィトンチッドの森で生き物や凍った湖の自然現象を観察しました。気温-5℃、快晴。

前半は国道の反対側エオルト沼が見える場所からスタートし、ダイサギの集団を観察しながら塘路湖に戻る形で野鳥および湖の結氷を観察しました。猛禽類は旋回するオオワシ、トビを確認。他にはマガモやユリカモメを湖上に確認し、結氷した塘路湖ではフロストフラワーが形成され氷の下に多くの小魚も確認できました。また、太陽光や水流によって氷がひび割れる音が常に湖全体に響き渡り、参加者を驚かせていた。

後半は森の遊歩道を散策し、シマエナガを含む多くの野鳥が姿を見せ、満足度の高い観察会となりました。参加者 11名



2月の自然ふれあい行事

事前の申込が必要です。

釧路湿原フィールドウォッチング

[日 時] 2月4日(土) 10時～12時

[定 員・参加料] 10名 無料

[開催場所] シラルトロ湖畔・蝶の森周辺

◎申込・問い合わせは塘路湖エコミュージアムセンターまで

湿原の裏山でスノーシューハイク

[日 時] 2月5日(日) 10時～12時

[定 員・参加料] 10名 無料

[開催場所] 温根内ビジターセンター

◎申込・問い合わせは温根内ビジターセンターまで
(0154-65-2323)

◆日出・日入時間 12/15(6:45,15:49). 12/31(6:52,15:57). 1/14(6:50,16:12)

～編集後記～

■厳寒の塘路湖畔を歩いていると分厚い氷と湖底の間にもわずかに水の層があり、素早く逃げる小魚やカエルが密集しているのを観察できる。小魚はジュズカケハゼというハゼ科の魚だ。なぜこうも岸に近い場所にいるのか。やや深い場所で反転して去っていったアメマスが理由を教えてくれた。岸に近づけばアメマスの体高では氷に阻まれ捕食されない。さらに、厚い氷があるため鳥などに上から狙われる心配もない。ジュズカケハゼを捕食できないアメマスは釣り客の仕掛けについたワカサギを仕掛けごと持っていくのであった。

釧路湿原国立公園

塘路湖エコミュージアムセンター あるこっと

☎ 088-2264 北海道川上郡標茶町塘路原野
TEL: 015-487-3003 FAX: 015-487-3004
E-mail: emc@hokkai.or.jp

Instagram [torokoemc](https://www.instagram.com/torokoemc)

開館時間: 10:00～16:00

(4～10月: 17:00まで)

休館日: 毎週水曜日 12月29日～1月3日

入館無料